

新BS第一段ロケット

NHK BS 発射!



いよいよ新BSの第一段ロケットとして4月から「NHK BS」が発射される。ここからBSは基幹メディアへの道を邁進することになる。新BSの29チャンネル普及を目指す本特集も4回目を迎えた。今号インタビューに答えていただいたのは、NHK BSの責任者の小泉公二・NHK衛星放送センター長、杉田成道・日本映画衛星放送社長（日本映画専門チャンネル）、田中晃・スカパー・エンターテインメント社長（BSスカチャン）、河内正孝・放送大学学園理事（放送大学）の4名。特にNHK新BSがスタートするので詳しく聞いた。残るのは3チャンネルの代表だ。次号（6月号）ではWOWOW、釣りビジョン、グリーンチャンネルが登場する。

（構成：天野昭／写真：新井誠+天野昭／資料提供：NHK広報+衛星放送システム）

新BSデジタル放送の開幕を告げる「ドーモ君」（提供：NHK広報）

新BSのインフラBSAT-3c打ち上げへ

ご存知のように約20年のBSの歴史で、特筆すべきは初期のBS「ゆり」の不安定ぶりだ。BS放送のインフラである放送衛星が安定していなければ「BS基幹メディア論」も怪しいものになる。いよいよBSAT-3cの製造・打ち上げのプロセスも最終段階に突入した。2011年3月に新BSトラポン利用者を対象に放送衛星システム（B-SAT）主催で「感謝と新しい出発のタベ」が開催された。このイベントには委託放送事業者の代表者たちが集結した。また、この会では次期BSのホシの概要と打ち上げについて紹介があった。

そのホシとはBSAT-3cである。BS放送とCS放送をサービスするHybrid型のホシで、正式には「BSAT-3c/JCSAT-110R」という。このホシの製造担当のロッキード・マーチン・グローバルインコーポレーテッド社、打ち上げ担当のアリアンスペース社両社の代表が概要の説明をおこなった。このホシの打ち上げは2011年初夏が予定されている。このホシの打ち上げが成功すれば、新BSとCS110度の放送インフラが磐石となる。

（天野昭）

次期BSの製造・打ち上げについて概要を説明する関係者たち。（左から）アーロ・ブラウン・ロッキード・マーチン・グローバルインコーポレーテッド日本地区担当副社長、ジョー・リッカーズ・ロッキード・マーチン商用衛星部門社長、竹中一夫・放送衛星システム社長、ジャン・レイ・クロードン・アリアンスペース東京事務所特別顧問、森素子同社東京事務所アシスタント



（写真提供：放送衛星システム）